事例No.	2101
公表年度	R4
団体の属性	都道府県
団体名	佐賀県

事例区分	DX

タグ	・観光 ・交通事業 ・ICT

事例種類	観光

事例内容・タイトル

交通事業者など多様な主体が参画したアプリの導入によるMaaS観光利用実証

出典

地域社会のデジタル化に係る参考事例集【第2.0版】

121 交通事業者など多様な主体が参画したアプリの導入によるMaaS観光利用実証【佐賀県】

事業の概要

○ 佐賀県は、人口減少社会における持続可能な交通体系を構築するため、MaaSアプリ「myroute」を導入し、県民及び観光客に多様なモビリティからなるシームレスで快適な移動を提案している。

○ このプロジェクトは、佐賀県などの行政機関や交通事業者など多様な分野の事業者で構成される「さがMaaS事業実行委員会」が実施している。

○ アプリ上で販売されるデジタルチケットは、利便性を向上させるだけでなく、公共交通における決済手段の高度化や、同エリアにおける交通事業者間の連携を促し、持続可能な交通体系の基盤づくりに貢献している。





【参考情報①】 人口：81.8万人
関連URL：https://saga-moblab.jp

【参考情報②】既存観光拠点再生・高付加価値化推進事業
交通連携型（国土交通省）とは
URL：https://www.kizonkanko.net/

もっと知りたい！ 担当者にインタビュー



取組の経緯・きっかけを教えてください。

（総務省）



令和４年秋に控える西九州新幹線の開業を契機に、県内公共交通の再構築及び利便性向上を図ることと、以前から佐賀県が主導して作成を進めてきた路線バスダイヤのオープンデータを有効活用するため、令和２年夏からMaaSアプリ導入の検討を始めました。

（佐賀県）



導入又は実証時において、国又は都道府県の支援制度（人的支援や技術提供、補助金等）を活用しましたか？



令和３年度においては、デジタルチケットの造成やプロジェクトのPRに当たり、国土交通省の「既存観光拠点再生・高付加価値化推進事業　交通連携型」の対象事業として採択され、補助金の交付を受けました。



事業の近況を教えてください。



令和４年秋に控える西九州新幹線の開業と佐賀・長崎デスティネーションキャンペーンを見据え、令和３年度に造成したデジタルチケット2種の利用促進とプロジェクトのPRなどを行っています。またカーシェアなどのシェアリングモビリティとの連携拡大や地域イベントとの連携、地域大学との連携を通じて、県民及び観光客への更なる浸透を図り、持続可能な交通体系の構築を目指しています。

★担当：佐賀県地域交流部 交通政策課★

令和3年度事業費　30,732千円
（うち、既存観光拠点再生・高付加価値化推進事業交通連携型（国土交通省）　2,632千円）